

農業女子プロジェクトとは

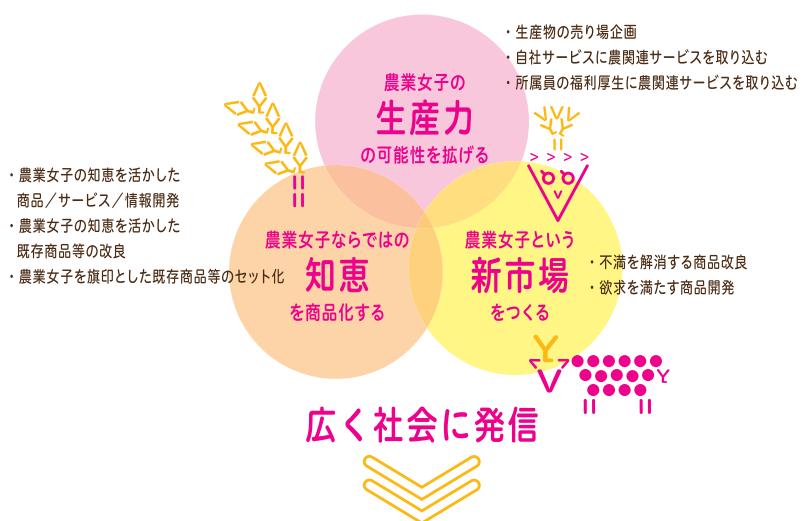
女性農業者が日々の生活や仕事、自然との関わりの中で培った知恵を様々な企業のシーズと結びつけ、新たな商品やサービス、情報を社会に広く発信していくためのプロジェクトです。

このプロジェクトを通して、農業内外の多様な企業・団体と連携し、農業で活躍する女性の姿を様々な切り口から情報発信することにより、社会全体での女性農業者の存在感を高め、併せて職業としての農業を選択する若手女性の増加を図ります。



コラボレーションの3種類

- プロジェクトの趣旨に賛同した企業と女性農業者が協同で、新たなサービス、情報等の開発を行う。
 - 企業とのコラボレーションで発揮されるのは、農業女子の持つ「生産力」「知恵力」「市場力」という3つのチカラ。



農業女子の定着、企業とのビジネス化、生産物の付加価値化



農業女子プロジェクト HP ● <http://nougyoujoshi.jp/>

農業女子プロジェクト Facebook ● <https://www.facebook.com/nougyoujoshi.project>

【農業女子プロジェクト】は、2013年11月に、農林水産省を事務局として、37名の農業女子メンバーと、9社の民間企業とで始まったプロジェクトです。発足から1年、農業女子メンバーは196名、企業は13社（2014年10月1日現在）に増えました。プロジェクトを支援してくださるサポートーズや、フェイスブックで「いいね！」を押してくださるファンの応援を力に、ますます活動を発展させていきたいと考えています。

プロジェクトに参加している農業女子メンバーは、農業を職業として選択し、新しい農業の姿を作っていくという強い思いを持った女性たちです。畑や田などをフィールドに、植物や動物、天気といった人間がコントロールすることは難しい 対象を相棒に、毎日のエネルギー・元気・笑顔の源となる食料を生産しています。

農業女子ってどんな人？

農業女子はどんな思いで農業に取り組んでいるの？

農業女子が目指す未来は？

など、「農業女子」の実像を、もっと多くの方々に伝えていきたいと考え、農業女子メンバーに行ったアンケートの結果をこの冊子にまとめました。

今後とも、【農業女子プロジェクト】への応援をよろしくお願いします。

2014年10月

【農業女子プロジェクト】事務局（農林水産省 経営局 就農・女性課）

農業という職業を選び、 今もその魅力の とりこです！



Q 農業を仕事にした理由

農業をやりたいと
自ら思った
(新規就農・後継者問わず)
47.6%

実家の農業を継ぐ
必要があった
16.8%

夫が農業を
やりたいといった
(新規就農・後継者問わず)
16.8%

Q 農業という仕事に感じている魅力

チャレンジの可能性の
大きいこと
72.0 %

食べ物を生産するという
人間の命に関わること
65.0 %

自然を
相手にすること
52.4%

沢山の人の笑顔を
見ることができること
47.6%

自分のペース
裁量できること
47.6 %

地域でできること
38.5%

社会の様々な
課題解決にも
貢献できること
37.1%

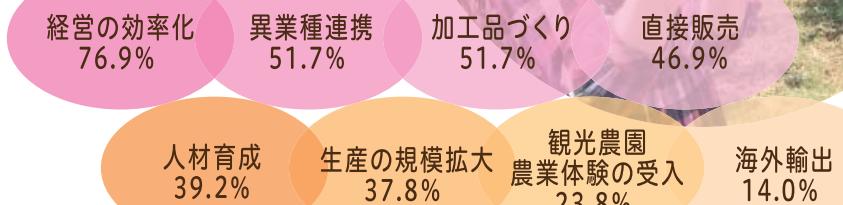
家族と一緒に
できること
35.7%

身体を動かすこと
32.2%

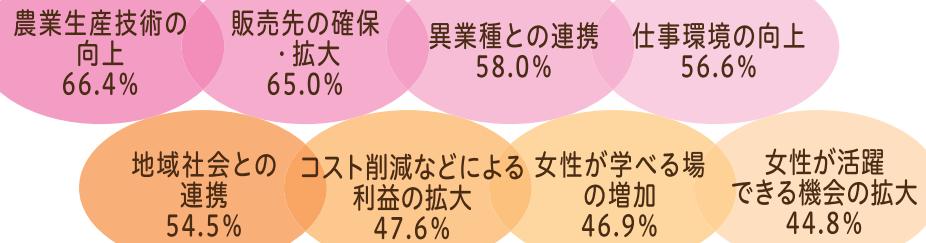
※複数回答

農業で自分自身のキャリア・アップをはかります。

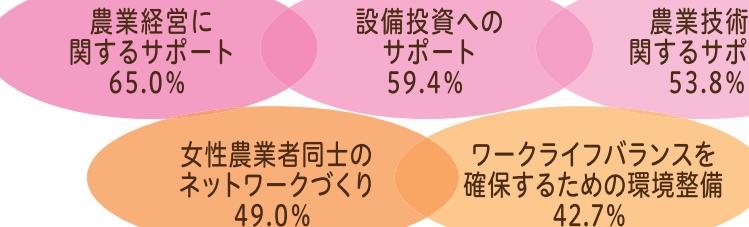
Q 仕事で取り組みたい力を入れていきたいこと



Q キャリア・アップに必要なこと



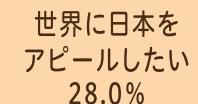
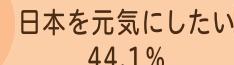
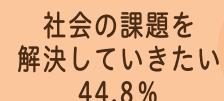
Q 必要なサポート



※複数回答

農業を通じての挑戦はまだまだ続きます。

Q 農業を通じて行っていきたいこと



※複数回答



これまでの活動事例

ヘルスケア
インナービューティーを創ろうプロジェクト



自動車
私の軽トラックプロジェクト



母の日
ありがとう!を苺にこめて

アパレル
フィールドウエア開発プロジェクト



ファーストフード
農業女子的野菜が喜ぶメニュー開発プロジェクト

旅行会社
農業体験 & 交流ツアー プロジェクト



レンタル会社
女子的トイレ開発プロジェクト



バレンタイン
Healthy Heartを贈ろう!

生活人として
仕事と生活の
バランスも大切です！

Q 仕事の満足度



Q 生活の満足度

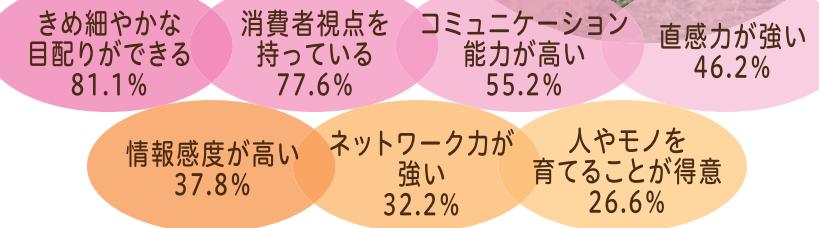


- 積った野菜や釣ってきた魚を食べ、自分のライフサイクルを自分で組み立てられる。
 - 衣、食、住、全て作った人の顔が見える暮らしになった。
- 会社員では味わえない、「生きている」という感じ。
 - 一日の生活が、自然とともにに行われている。
- 家族で楽しい毎日！
 - 仕事と子育て、自分たちの時間のバランスがうまくとれるようになってきた。
- 家族が元気で仕事に協力してくれていること。友人も応援してくれている。
 - 時間を自分で自由に調整できる。
- 家から仕事に行く時に喜びを感じ、仕事から家に帰る時も喜びを感じる。
 - ぐっすり眠ることができる。
- 自分のやりがいを見つけて自分らしく生活できる。

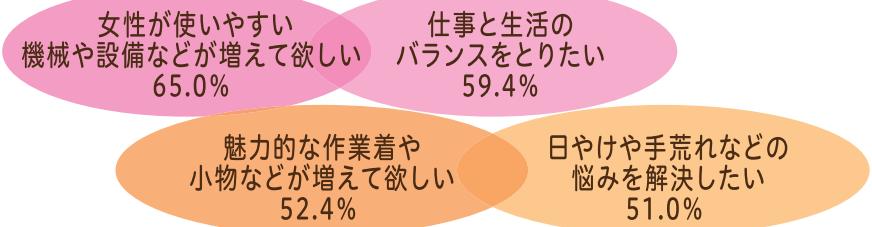


農業女子であることの
強みを活かして
取り組んでいきます！

Q 女性農業者の強みは？



Q 農業女子として仕事環境をよりよくするために必要なこと



Q プロジェクトを通じて今後、重点的に取り組んでいきたいこと

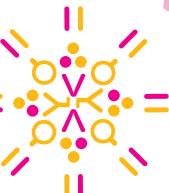


※複数回答



強く優しく
未来を変えていく

農業女子PJ



農業女子宣言

- 1 私たちは、安全で安心な食物を多くの人に届けることを喜びとしています。
- 2 私たちは、農業の未来を創るべくチャレンジと努力を惜しません。
- 3 私たちは、農業という仕事の魅力を広く社会に発信していきます。

農業女子 PROFILE

※アンケート回答者143名のデータに基づく。

年齢

- 1位. 30代
- 2位. 40代
- 3位. 20代

就農してからの年数

- 1位. 1年以上5年未満
- 2位. 5年以上10年未満
- 3位. 15年以上

農業を始める前の仕事

- 1位. 食品関係以外の勤め人
- 2位. 食品関係の勤め人
- 3位. 学生

いつも身につけている仕事道具

- 1位. 携帯電話（スマホ）
- 2位. 手袋
- 3位. タオル

住んでいる地域

- 1位. 関東
- 2位. 中国・四国
- 3位. 東海/近畿

現在の就農形態

- 1位. 嫁として農業生産に従事
- 2位. 夫婦で共同経営
- 3位. 単独で(代表者として)経営

家族構成

- 1位. 二世代世帯
- 2位. 三世代世帯
- 3位. 夫婦のみ

現在の経営形態

- 1位. 個人事業主
- 2位. 農業生産法人
- 3位. 一般法人

主に生産しているもの

- 1位. 野菜中心
- 2位. 果樹中心
- 3位. 米中心

子どもの時に一番好きだった勉強

- 1位. 国工
- 2位. 国語
- 3位. 体育

普段の食事の食材、どのように入手することが多い?

- 1位. 自分の畠から
- 2位. お店で購入
- 3位. 知り合いから(物々交換など)

お休みの日の過ごし方

- 1位. たまつた家事を片付ける
- 2位. 趣味を楽しむ
- 3位. 家でゆっくり過ごす

現在の経営内容

- 1位. 農業生産
- 2位. 直接販売
- 3位. 加工品づくり

子どもの時になったかった職業

- 1位. 学校の先生・保育士
- 2位. 食品関係の仕事/美容師
ファッション関係の仕事
- 3位. 医師・看護師

意外と農業者は少なく、獣医や花屋など生きものを相手にする職業を夢みていた女子も。学校の先生や保育士も、人を育てる仕事ですね。

普段のお仕事のスタート時間

- ※季節によって違う場合は、今年の夏について
- 1位. 6時より早く
 - 2位. 8時台
 - 3位. 7時台